

をあつめし冊子あれば、此事寛文のはじめよりおこり、寶永正徳の頃までもありしなるべし。  
〔吾吟我集雜九〕順禮を

くばりつ、札をうちきる順禮やかぞへかるたの遊び成らん

〔享保集成絲綸錄四十九〕慶安元子年二月

一前々々被仰付候ばくち、はうびきけんねんじがるた。何ニ而も諸勝負堅仕間敷事、

二月

〔御定書百箇條〕三笠附博奕打取退無盡御仕置之事、

享保十六年極一輕き賭之寶引よみかるた打候者 三十日鎖

〔張紙留〕一博奕いたし重敲ニ相成候後、めぐりかるた致候もの御仕置之事、

〔天保集成絲綸錄百四〕寛政三亥年八月

町觸

博。奕。ニ。限。り。用。候。か。る。た。札。は。賣。買。致。間。敷。儀。勿。論。ニ。候。處。心。得。違。之。者。も。有。之。趣。相。聞。不。埒。之。事。ニ。候。

右之外ニも、總而博奕ニ而已用候品致賣買おひては、其品取上、答申付候間、其旨可心得者也、

〔守貞漫稿二十八〕カルダ略中

花合。是。モ。小。牌。ニ。櫻。梅。桐。菊。牡。若。等。ヲ。彩。畫。シ。勝。負。ヲ。ナス。ノ。戲。レ。也。或。ハ。賭。ト。ス。ル。モ。アリ、

雜載

〔當世武野俗談〕菱屋おりつかるた名譽

兩國橋向本所一ツ目近所茶屋町寄合茶屋にて、菱屋小左衛門と云もの有、かれが父は常憲院様御代御出頭たりし柳澤松平甲斐守殿氣に入定紋花菱の小袖上下をゆるされ、其家の名も菱屋と名乗けり、今の菱屋小左衛門が女房おりつと云は、名高き女なり、瓜の仁助と云通り者の娘なり、兩國橋幾世餅の女房も仁助娘にて、菱屋のか、が妹なり、されば此りつ女の身にて、幼少より